

農作物技術情報 第2号の要約

平成28年 4月27日発行

岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部

作目	技術の要約
水稲	<p>生育状況: 播種作業は終盤を迎えている。苗の生育は平年よりやや早い。</p> <p>技術対策</p> <ul style="list-style-type: none">○育苗管理: こまめな温度・水管理に努める。特に低温時の苗立枯れ、高温時の細菌病発生に注意。イネばか苗病が発生した場合には、粃ごと苗を抜き取り、本田に持ち込まないように努める。○田植え: 天候のよい日を選んで田植えを行う。活着促進のため、こまめな水管理に努める。○雑草防除: 除草剤は雑草の種類や使用時期に応じて選択。田面を露出させない水管理を行う。○葉いもち予防: 稲わら・粃がらは育苗施設付近に置かない。取置苗は土中埋没等で直ちに処分する。
畑作物	<p>生育状況: 融雪が早く越冬後の生育は概ね良好。越冬後の気温が高く経過しており、平年より1週間程度生育が早まっている。縮萎縮病の発生は平年より多め。</p> <p>技術対策:</p> <p>小麦: ○圃場の排水口や明渠の点検補修を行う。</p> <ul style="list-style-type: none">○減数分裂期以降の追肥は、品種・用途、地力を考慮し、生育量に応じて行う。○生育ステージを確認し防除時期を見極める。赤かび病の防除は、開花始期～盛期に必ず行う。 <p>大豆: 圃場の選定を吟味する。排水対策は圃場の乾いている時期に余裕を持って施工する。</p>
野菜	<p>生育状況: 強風により施設のフィルム破損が発生したが、施設果菜類の生育及び苗の生育への影響は少ない。雨よけほうれんそうでは応急的な雨よけ対策を実施中。葉菜類の生育は概ね順調。</p> <p>施設果菜: 天候に応じて朝晩は保温資材・補助暖房を活用して保温を行うほか、日中は高温になりすぎないように換気に努める。灌水の必要がある場合、日中の温度が高いうちに行い適湿を保つ。</p> <p>露地きゅうり: 圃場の土壌 pH を適正にするとともに、排水対策などの圃場準備を進める。</p> <p>露地葉菜類: 育苗の温度管理等を徹底し、定植後はべたがけ資材で植え傷みや凍霜害を回避する。</p> <p>雨よけほうれんそう: 播種時の灌水を十分行い、生育ムラを回避する。ハウレンソウケナガコナダニの防除対策を徹底する。</p>
花き	<p>生育状況: 露地りんどうの生育は、全県的に平年より進んでいる。</p> <p>技術対策</p> <p>りんどう: 株仕立て、施肥等の作業が遅れないようにする。</p> <p>小ぎく: 育苗期間中の温度管理には十分注意する。定植後も状況に応じた温度管理、水管理に努める。</p>
果樹	<p>生育状況: りんごの生育は平年に比べて、発芽で4～11日、展葉は4～10日進んでいる。県南部を中心に蕾が膨らんでいる。</p> <p>凍霜害対策 りんご、おうとう、ぶどう等: 気象情報に注意し、事前の対策を徹底する。</p> <p>技術対策</p> <p>りんご: 小玉化及び隔年結果防止のため、早期適正着果に努める。</p> <p>ぶどう: 安定的な結実を図るため、芽かき作業等の管理に努める。</p>
畜産	<p>技術対策</p> <p>牧草地: 除草剤散布の場合、新播草地と維持草地の薬剤量の違いに注意し、適切に使用する。</p> <p>飼料用トウモロコシ: 適切な品種選定と施肥を行い、播種時の栽植本数を守り、雑草防除に努める。</p>

詳細については「いわてアグリベンチャーネット」をご覧ください。 <http://i-agri.net> (「いわてアグリ」と検索すると上位に表示されます)

○農業適正使用: 使用前に必ずラベルを確認し、使用基準の厳守と飛散防止を心がけてください。

○農作業安全: 事故のないよう、農作業安全に十分留意してください。

次号は平成28年5月26日(木)発行の予定です